校 内 研 修 計 画

甲州市立東雲小学校

１．学校課題

本校の児童は明るく素直で，友達と仲良く協力して活動したり，進んで係や委員会の仕事に取り組んだりすることができる。縦割り活動をはじめとする児童会活動では上級生が下級生の面倒を見る姿が見られ，助け合う思いやりの心が次の学年に引き継がれている。休み時間は元気になわとびやボール遊びを楽しみ，学年関係なく子供たち同士が自然に教え合い，「できるようになりたい。」という意欲的な表情は，生き生きと輝いている。

学習では，課題に対して意欲的に取り組み，よく考えて学ぶ様子が見られる。各教科の授業や家庭学習で，漢字や計算等の基礎学力の定着を図る取り組みを行い，どの子も前向きに一生懸命取り組んでいる。しかし一方で学習の場面で教師の支援が必要な児童や，自己肯定感の低い児童もいる。そのような児童の実態を踏まえ，学ぶ意欲をもって学習に取り組めるように，何でも言い合える共に学ぶ学習集団をつくっていく必要がある。令和５年度山梨県学校指導重点「学級経営の充実」の中にある「教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい人間関係を育てる土台」となる学級集団づくり，そして甲州市「確かな学力」育成プロジェクト事業の「協働的な学び」を目指し，WEBQU検査の結果や分析等を活用しながら教育効果を高める学級集団づくりに取り組んでいきたい。

２．研究主題

「自ら考え，よりよく生きようとする心豊かな児童の育成」

～ 伝え合い，対話の中で考えを深める道徳の授業づくりを通して ～

３．主題設定の理由

本校は昨年度から３年間（R４～６年）道徳教育推進校の指定となった。昨年１年目の研究では「互いに伝え合い・認め合う」を意識して研究を進めてきた。東雲小の子供たちの実態を踏まえ，自分の考えを持つこと，その考えを相手に伝えること，お互いの考えを認め合うことで道徳的価値を理解し「よりよく生きようとする」姿を目指して取り組んだ。「伝え合う」「認め合う」の２つの研究の柱のもと，授業の流れや発問を考えることは大きな成果が得られ研究を有意義に深めることができた。一方「認め合う」子供の姿とはどのような姿なのか，具体的なイメージを持つことができなかったこと，手立てを講じて実践できなかった課題が挙げられた。そこで「伝え合う」姿を目指していく過程の中で「認め合う」場や表現方法を工夫していくことができれば，自分の考えを「深めて」自分が納得できる考えが持てるのではないかと考えた。今年度は，「認め合う」姿を含めた「伝え合う」ことを重点的に，「伝え合う」の質をより高めることを意識しながら，自他を知ることで自己の考えや生き方を深め，私たちが目指す「自ら考え，よりよく生きようとする心豊かな児童の育成」へとつなげていきたいと考える。

子供の発言を教師が独り占めしてしまうのではなく，教師がコーディネーター役として子供の考えをつないでいくことを大切にした「対話」に重点を置き，「対話的で深い学び」を通して「多面的，多角的に考え」が深まる手立てや指導について研究を進めていくことが，「伝え合う」ことの質の向上につながるのではないかと考える。つまり，子供同士の「対話」を大切にし，他者の考えを聞くことで自分の考えをより深め，自己の生き方に生かしていけるような「考え，議論する道徳」を目指していく。また，子供が考えたくなる道徳の授業，議論したくなる道徳の授業を大切にしながら工夫や手立てを研究していきたい。

４．研究仮設

道徳の時間において，自己の考えを深める対話を充実させた授業（A）を行うことで，自己を見つめる児童（B）を育むことができるであろう。

５．「自己を見つめる児童」とは

　　 授業のねらいとする道徳的価値について自分との関わりで捉え，多面的・多角的に考えることを通して自分のよさや課題などに気づき，自分の心と向き合い真剣に考える主体的な子供の姿を「自己を見つめる」姿として捉える。

６．研究の柱

　①考え，議論する工夫と手立て 　　 ○多様な考えを深める発問（中心発問，補助発問，問い返し）

　 ○交流の場設定（ICT端末活用，話し合いのルール）

　②自己の成長に気づく工夫と手立て　 ○自分事として考える（アンケート，実態把握，教材との出会い）

○考えの振り返り（比較，可視化，思考ツールの活用，１枚ポートフォリオ，書く活動）

７．研究の具体的内容と方法

|  |  |
| --- | --- |
| （１）道徳科における「対話」を意識した  授業づくり | ・講師を招いての学習会（理論研究）　　 ・研究授業，一人一実践  ・教材教具・ICT端末の効果的な活用方法について　　 ・１枚ポートフォリオの活用と評価 |
| （２）親和的な学級集団づくりの充実 | ・各教科，行事，特別活動，総合的な学習の時間との関り |
| （３）児童の実態把握 | ・道徳アンケート（６月１２月に年２回実施） ・WEBQU検査とK１３法による検査結果分析 |
| （４）学校教育全体における道徳教育の推進 | ・児童会との連携（あいさつ，無言清掃，縦割り活動等）　 ・自然の杜の活用（自然愛護） |
| （５）「確かな学力」育成プロジェクトとの関り | ・WEBQU検査，学級集団づくりアセスメント・対応策シート  ・アウトメディア，GIGAワークブックの活用　 ・家庭学習，学習スタンバイの取組 |
| （６）家庭，地域，  中学校ブロックとの連携，交流 | ・授業参観（年１回道徳の授業実施）　 ・学校，学年だよりの活用  ・中学校ブロックでの連携，交流 |

８．年 間 校 内 研 修 計 画

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 実施月日 | | 研　修　内　容　（領域） | | 担当・学年 | T･C要請 |
| ４ | ５ | 第　１回 | 研究の方向性について | 研究主任 |  |
| １２ | 第　２回 | 校内研修計画について　授業者の決定 | 研究主任 |  |
| １９ | 第　３回 | 家庭学習の取り組みについて　部会研究 | 研究主任 |  |
| ５ | ２４ | 第　４回 | 学習会　（講師：指導主事　小嶋庸子先生） | 研究主任 | ○ |
| ３１ | 第　５回 | WEBQU結果分析　対応策シートの作成 | 各学年 |  |
| ６ | ２６ | 第　６回 | 学習会（講師：内藤雅人先生） | 研究主任 | ○ |
| ７ | ５ | 第　７回 | 道徳アンケートの結果分析 | 各学年 |  |
| ８ | １７ | 第　８回 | 教育課程還流報告　部会研究① | 部会長 |  |
| ９ | ６ | 第　９回 | 部会研究② | 部会長 |  |
| ２７ | 第１０回 | 部会研究③ | 部会長 |  |
| １０ | ４ | 第１１回 | 部会研究④ | 部会長 |  |
| １１ | １ | 第１２回 | 授業案検討 | 授業者 |  |
| ８ | 第１３回 | WEBQU結果分析　対応策シートの作成 | 各学年 |  |
| １５ | 第１４回 | 公開研究準備 | 研究主任 |  |
| １７ | 第１５回 | 公開研究授業 | 授業者 | ○ |
| １２ | １３ | 第１６回 | 研究部会の成果と課題について | 部会長 |  |
| １ | ２９ | 第１７回 | 研究の成果と課題について　来年度の方向性について | 研究主任 |  |
| ２ | ７ | 第１８回 | 研究紀要原稿作成 | 各学年 |  |
| ２８ | 第１９回 | 研究紀要原稿作成 | 各学年 |  |
| ３ | ６ | 第２０回 | 研究紀要の作成 | 研究主任 |  |

（研究主任　菱澤里美）